

スイッチング

概要・基本設定	2
ポートの指定方法	2
基本コマンド	2
ポートランキング	3
ポートミラーリング	4
基本設定	5
コマンドリファレンス編	7
機能別コマンド索引	7
ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE	8
ADD SWITCH TRUNK	9
CREATE SWITCH TRUNK	11
DELETE SWITCH TRUNK	13
DESTROY SWITCH TRUNK	14
DISABLE SWITCH BPDUFORWARDING	15
DISABLE SWITCH FLOW	16
DISABLE SWITCH INFILTERING	17
DISABLE SWITCH MIRROR	18
DISABLE SWITCH PORT	19
ENABLE SWITCH BPDUFORWARDING	20
ENABLE SWITCH FLOW	21
ENABLE SWITCH INFILTERING	22
ENABLE SWITCH MIRROR	23
ENABLE SWITCH PORT	24
RESET SWITCH	25
RESET SWITCH PORT	26
SET SWITCH MIRROR	28
SET SWITCH PORT	30
SET SWITCH TRUNK	32
SHOW SWITCH	33
SHOW SWITCH COUNTER	35
SHOW SWITCH MIRROR	36
SHOW SWITCH PORT	38
SHOW SWITCH PORT COUNTER	41
SHOW SWITCH TRUNK	44

概要・基本設定

本製品のスイッチポートは、ご購入時の状態ですべてイネーブルに設定されており、互いに通信可能な状態にあります。スタンドアローンのレイヤー 2 スイッチとして使う場合、特別な設定は必要ありません。設置・配線を行うだけで使用できます。

ポートの指定方法

スイッチポートに対する設定コマンドには、複数のポートを一度に指定できるものがあります。

■ 1つのポートを指定

```
ENABLE SWITCH PORT=2 ↵
```

■ 連続するポート番号をハイフン区切りで指定

```
ADD VLAN=black PORT=3-7 ↵
```

■ 連続していないポート番号をカンマ区切りで指定

```
SHOW SWITCH PORT=2,4,8 ↵
```

■ カンマとハイフンの組み合わせ指定

```
SHOW SWITCH PORT=2,4-7 ↵
```

■ すべてのポートを意味する ALL を指定

```
RESET SWITCH PORT=ALL COUNTER ↵
```

基本コマンド

スイッチポートに対して操作を行う基本的な設定コマンドを紹介します。詳細は各コマンドの説明をご覧ください。

■ ポートを有効にするには、ENABLE SWITCH PORT コマンド (24 ページ) を使います。

```
ENABLE SWITCH PORT=8 ↵
```

■ ポートを無効にするには、DISABLE SWITCH PORT コマンド (19 ページ) を使います。

```
DISABLE SWITCH PORT=8 ↵
```

■ ポートの通信モード（通信速度とデュプレックスモード）を変更するには、SET SWITCH PORT コマンド (30 ページ) の SPEED パラメーターを使います。デフォルトは AUTONEGOTIATE です。

```
SET SWITCH PORT=2 SPEED=100MHALF ↵
```

■ 強制的にオートネゴシエーションを行わせるには、**ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE** コマンド (8 ページ) を使います。通信モードが **AUTONEGOTIATE** のポートでのみ有効です。

```
ACTIVATE SWITCH PORT=8 AUTONEGOTIATE ↓
```

■ ポートをハードウェア的にリセットするには、**RESET SWITCH PORT** コマンド (26 ページ) を使います。

```
RESET SWITCH PORT=3,6 ↓
```

■ ポートの状態を確認するには、**SHOW SWITCH PORT** コマンド (38 ページ) を使います。

```
SHOW SWITCH PORT ↓
```

■ ポートの送受信の統計情報を確認するには、**SHOW SWITCH PORT COUNTER** コマンド (41 ページ) を使います。

```
SHOW SWITCH PORT=12 COUNTER ↓
```

■ ポートの統計カウンターをクリアするには、**RESET SWITCH PORT** コマンド (26 ページ) に **COUNTER** オプションを指定して実行します。**COUNTER** オプションを省略すると、ポートがハードウェア的にリセットされてしまうので注意してください (カウンターもクリアされます)。

```
RESET SWITCH PORT=ALL COUNTER ↓
```

ポートトランキング

ポートトランキングは複数の物理ポートを束ねてスイッチ間の帯域幅を拡大する機能です。束ねたポートはトランクグループと呼ばれ、論理的に 1 本のポートとして扱われます。トランクグループは、VLAN 内でも単一ポートとして認識されます。また、トランクグループ内のポートに障害が発生しても残りのポートで通信が継続できるため、信頼性を向上します。

本製品ではトランクグループを 4 つまで作成できます。それぞれのトランクグループには、最大 8 ポートまで所属させることが可能です。ポートは隣接していなくてもかまいません。

- ☞ トランクグループに指定できるのは、ポート 1~8 までです。FS816M の場合、ポート 9~16 はトランプグループに指定できません。また、他のトランクグループに所属するポートやミラーポートは指定できません。トランクポートは同じ VLAN に所属している必要があります。

ポートトランキングを使用するために最低限必要な設定について説明します。ここでは、ポート 1-4 を束ねて使用するものとします。

1. トランクグループ「**uplink**」を作成します。グループ名は任意に指定できます。

```
CREATE SWITCH TRUNK=uplink SPEED=100MFULL ↓
```

2. トランクグループにポートを追加します。束ねるポートはあらかじめ同じ VLAN に所属させておく必要があります。

```
ADD SWITCH TRUNK=uplink PORT=1-4 ↵
```

基本設定は以上です。

- ☞ トランクグループにポートを追加したあとで、グループ全体あるいはグループ内のポートを所属 VLAN から削除することはできません。VLAN から削除するには、DELETE SWITCH TRUNK コマンド (13 ページ) を使ってあらかじめポートをトランクグループから外しておく必要があります。
- ☞ トランクグループにステータスが無効の状態のポートを追加することはできません。
- ☞ トランクグループに所属しているスイッチポートは、DISABLE SWITCH PORT コマンド (19 ページ) で無効にすることはできません。トランクグループに所属しているスイッチポートを無効にする場合には、まず DELETE SWITCH TRUNK コマンド (13 ページ) で該当ポートをトランクグループから削除し、その上で DISABLE SWITCH PORT コマンド (19 ページ) で無効にしてください。
- ☞ ポートトランキングの設定は、トランクポートによって接続される双方のスイッチで行う必要があります。

■ トランクグループの情報は SHOW SWITCH TRUNK コマンド (44 ページ) で確認できます。

```
SHOW SWITCH TRUNK=uplink ↵
```

■ トランクグループを通るパケットはすべて、トランキングアルゴリズムによって割り振られます。このアルゴリズムは、送信元アドレスと宛先アドレスと接続ポート数によって計算します。

■ トランクグループに追加されたポートの通信モードは、CREATE SWITCH TRUNK コマンド (11 ページ)、または、SET SWITCH TRUNK コマンド (32 ページ) で指定した速度となります。個別ポートの設定はトランクグループに追加した時点で上書きされます。

■ トランクグループからポートを削除するには DELETE SWITCH TRUNK コマンド (13 ページ) を使います。

```
DELETE SWITCH TRUNK=uplink PORT=4 ↵
```

■ トランクグループを削除するには DESTROY SWITCH TRUNK コマンド (14 ページ) を使います。所属ポートがあるときは削除できません。その場合は、先に DELETE SWITCH TRUNK コマンド (13 ページ) で所属ポートを削除します。

```
DELETE SWITCH TRUNK=uplink PORT=ALL ↵
```

```
DESTROY SWITCH TRUNK=uplink ↵
```

ポートミラーリング

ポートミラーリングは、特定のポートを通過するトラフィックをあらかじめ指定したミラーポートにコピーする機能です。パケットを必要なポートにだけ出力するスイッチではパケットキャプチャーなどが困難ですが、ポートミラーリングを利用すれば、任意のポートのトラフィックをミラーポートでキャプチャーできます。

なお、本製品でのポートミラーリング機能には以下の特徴があります。

- ミラーポートとして1ポート指定できます。
- VLAN default 以外に所属しているポート、およびタグ付きポートはミラーポートに設定できません。また、トランクポートも設定できません。
- SET SWITCH MIRROR コマンド (28 ページ) でミラーポートの設定を行いますが、すでに別のポートがミラーポートとして設定されていた場合、先に設定されていたポートはミラーポートでなくなり、VLAN default 所属のタグなしポートとなります。ミラーポートになったポートは、どの VLAN にも所属しません。

基本設定

ここではポート 1 をミラーポートに設定し、ポート 5 から送受信されるトラフィックがミラーポートにコピーされるように設定します。

1. ミラーポートを指定します。指定できるのは VLAN default 所属のポートだけです。ミラーポートに指定したいポートが VLAN default 以外に所属している場合は、最初に現在所属の VLAN から削除し VLAN default の所属に戻した上で、SET SWITCH MIRROR コマンド (28 ページ) を実行します。

```
DELETE VLAN=somevlan PORT=1 ↵
```

SET SWITCH MIRROR コマンド (28 ページ) を実行すると、指定ポートはミラーポートとして設定され、どの VLAN にも属していない状態となります。

```
SET SWITCH MIRROR=1 ↵
```

すでにミラーポートとして設定されているポートがあった場合、本コマンド実行によりそのポートは VLAN default 所属のタグなしポートとなります。

🔗 トランクグループに参加しているポートをミラーポートに設定することはできません。

🔗 ミラーポートに設定されたポートは通常のスイッチポートとしては機能しません。

2. ポートミラーリング機能を有効にします。あらかじめミラーポートが設定されていないと本コマンドは失敗します。手順 1 にしたがってミラーポートを指定してから本コマンドを実行してください。

```
ENABLE SWITCH MIRROR ↵
```

3. ソースポートとトラフィックの向きを指定します。ここではポート 5 から送受信されるトラフィックをミラーポートにコピーします。

```
SET SWITCH PORT=5 MIRROR=BOTH ↵
```

■ 詳細なミラーリングの条件をミラーポートに設定できます。例えば、上記の例でポート 5 から送受信されるトラフィックのうち、送信元 MAC アドレスが 00-53-44-22-c6-46 の受信フレームのみに限定してミラーリングしたい場合には、手順 1 のコマンドを次のように設定します。

```
SET SWITCH MIRROR=1 RXFILTER=SA RXADDRESS=00-53-44-22-c6-46 ↵
```

■あるいは、例えば、上記の例でポート 5 から送受信されるトラフィックのうち、宛先 MAC アドレスが 00-53-44-22-c6-46 の送信フレームのみに限定してミラーリングしたい場合には、手順 1 のコマンドを次のように設定します。

```
SET SWITCH MIRROR=1 TXFILTER=DA RXADDRESS=00-53-44-22-c6-46 ↵
```

■送信フレームのミラーリングのインターバルを 10 パケット毎に行う場合、上記手順 1 のコマンドを次のように設定します。

```
SET SWITCH MIRROR=1 TXINTERVAL=9 ↵
```

☞ ミラーポート以外のポートをソースポートとして指定できますので、FS808M の場合最大 7 ポート、FS816 の場合最大 15 ポートをソースポートとして指定できます。ただし、ソースポートが増えるとパフォーマンスの低下につながりますのでご注意ください。また、複数のソースポートを指定した場合で、かつ指定ポートにタグ付きとタグなしが混在している場合、送信パケットはすべてタグなしとしてミラーリングされます。

設定は以上です。

■ポートミラーリングの設定を確認するには SHOW SWITCH コマンド (33 ページ) を実行します。ミラーポートは SHOW VLAN コマンド (「バーチャル LAN」の 20 ページ) の「Mirror Port」欄でも確認できます。また、ソースポートとミラー対象トラフィックは SHOW SWITCH PORT コマンド (38 ページ) の「Mirroring」欄でも確認できます。

■ポートミラーリング機能を無効にするには DISABLE SWITCH MIRROR コマンド (18 ページ) を実行します。

```
DISABLE SWITCH MIRROR ↵
```

■ミラーポートの設定を解除するには SET SWITCH MIRROR コマンド (28 ページ) に NONE を指定します。設定を解除されたポートは VLAN default 所属のタグなしポートに戻ります。

```
SET SWITCH MIRROR=NONE ↵
```

■ソースポートのミラーリングを行わないようにするには SET SWITCH PORT コマンド (30 ページ) の MIRROR パラメーターに NONE を指定します。

```
SET SWITCH PORT=5 MIRROR=NONE ↵
```

■ミラーポートに設定されたポートは通常のスイッチポートとしては機能しません。SET SWITCH MIRROR コマンド (28 ページ) を実行した時点で、ミラーポートはいずれの VLAN にも所属していない状態となります。

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

概要・基本設定

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE	8
ADD SWITCH TRUNK	9
CREATE SWITCH TRUNK	11
DELETE SWITCH TRUNK	13
DESTROY SWITCH TRUNK	14
DISABLE SWITCH BPDUFORWARDING	15
DISABLE SWITCH FLOW	16
DISABLE SWITCH INFILTERING	17
DISABLE SWITCH MIRROR	18
DISABLE SWITCH PORT	19
ENABLE SWITCH BPDUFORWARDING	20
ENABLE SWITCH FLOW	21
ENABLE SWITCH INFILTERING	22
ENABLE SWITCH MIRROR	23
ENABLE SWITCH PORT	24
RESET SWITCH	25
RESET SWITCH PORT	26
SET SWITCH MIRROR	28
SET SWITCH PORT	30
SET SWITCH TRUNK	32
SHOW SWITCH	33
SHOW SWITCH COUNTER	35
SHOW SWITCH MIRROR	36
SHOW SWITCH PORT	38
SHOW SWITCH PORT COUNTER	41
SHOW SWITCH TRUNK	44

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE

カテゴリー：スイッチング

ACTIVATE SWITCH PORT={*port-list*|ALL} AUTONEGOTIATE

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

指定ポートでオートネゴシエーションプロセスを強制起動し、接続先ポートと通信モード（速度/デュプレックス）のネゴシエーションを行わせる。指定ポートがオートネゴシエーションでない場合は実行されない

パラメーター

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

入力・出力・画面例

```
Manager > activate switch port=1 autonegotiate

Operation successful.
```

例

■ポート 1 にオートネゴシエーションを行わせる

ACTIVATE SWITCH PORT=1 AUTONEGOTIATE

関連コマンド

DISABLE SWITCH PORT (19 ページ)

ENABLE SWITCH PORT (24 ページ)

RESET SWITCH PORT (26 ページ)

SET SWITCH PORT (30 ページ)

SHOW SWITCH PORT (38 ページ)

ADD SWITCH TRUNK

カテゴリー：スイッチング

ADD SWITCH TRUNK=*trunk* **PORT**=*port-list*

trunk: トランクグループ名

port-list: スイッチポート番号（1～8。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能）

解説

既存のトランクグループにポートを追加する

パラメーター

TRUNK トランクグループ名

PORT 対象となるスイッチポート番号。1 グループに最大 8 ポート追加可能

入力・出力・画面例

```
Manager > add switch trunk=uplink port=1

Operation successful.
```

例

■トランクグループ「uplink」にポート 1 を追加する

ADD SWITCH TRUNK=uplink PORT=1

備考・注意事項

トランクグループに指定できるのは、ポート 1～8 まで。FS816M の場合、ポート 9～16 はトランプグループに指定できない。また、他のトランクグループに所属するポートやミラーポートは指定できない。トランクグループにステータスが無効の状態のポートを追加することもできない。トランクポートは同じ VLAN に所属している必要がある

関連コマンド

CREATE SWITCH TRUNK（11 ページ）

DELETE SWITCH TRUNK（13 ページ）

DESTROY SWITCH TRUNK (14 ページ)

SET SWITCH TRUNK (32 ページ)

SHOW SWITCH TRUNK (44 ページ)

CREATE SWITCH TRUNK

カテゴリー：スイッチング

```
CREATE SWITCH TRUNK=trunk [PORT=port-list] [SPEED={AUTONEGOTIATE|10MHALF|
10MFULL|100MHALF|100MFULL}]
```

trunk: トランクグループ名 (1～20 文字。半角英数字、およびハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.], 開始丸カッコ [(], 終了丸カッコ [)] が使用可。大文字・小文字の属性は無視されるが、表示には大文字・小文字の区別が反映される)
port-list: スイッチポート番号 (1～8。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

トランクグループを作成する。最大 4 グループまで作成可能

パラメーター

TRUNK トランクグループ名。最大 4 グループまで作成可能

PORT 対象となるスイッチポート番号

SPEED トランクポートの通信速度 (AUTONEGOTIATE、10MHALF、10MFULL、100MHALF、100MFULL)。
 トランクグループに参加したポートは、ここで指定した速度となる。デフォルトは AUTONEGOTIATE

入力・出力・画面例

```
Manager > create switch trunk=uplink speed=100mfull

Operation successful.
```

例

■ トランクグループ「uplink」を作成する。通信速度は 100MFULL とする

```
CREATE SWITCH TRUNK=uplink SPEED=100MFULL
```

備考・注意事項

トランクグループに指定できるのは、ポート 1～8 まで。FS816M の場合、ポート 9～16 はトランプグループに指定できない。また、他のトランクグループに所属するポートやミラーポートは指定できない。トランクグループにステータスが無効の状態のポートを追加することもできない。トランクポートは同じ VLAN に所属している必要がある

関連コマンド

ADD SWITCH TRUNK (9 ページ)

DELETE SWITCH TRUNK (13 ページ)

DESTROY SWITCH TRUNK (14 ページ)

SET SWITCH TRUNK (32 ページ)

SHOW SWITCH TRUNK (44 ページ)

DELETE SWITCH TRUNK

カテゴリー：スイッチング

DELETE SWITCH TRUNK=*trunk* **PORT**=*port-list*

trunk: トランクグループ名

port-list: スイッチポート番号 (1~8。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

トランクグループからポートを削除する

パラメーター

TRUNK トランクグループ名

PORT 対象となるスイッチポート番号

入力・出力・画面例

```
Manager > delete switch trunk=uplink port=1  
  
Operation successful.
```

例

■ トランクグループ「uplink」からポート 1 を削除する

DELETE SWITCH TRUNK=uplink PORT=1

関連コマンド

ADD SWITCH TRUNK (9 ページ)

CREATE SWITCH TRUNK (11 ページ)

DESTROY SWITCH TRUNK (14 ページ)

SET SWITCH TRUNK (32 ページ)

SHOW SWITCH TRUNK (44 ページ)

DESTROY SWITCH TRUNK

カテゴリー：スイッチング

DESTROY SWITCH TRUNK=trunk

trunk: トランクグループ名

解説

トランクグループを削除する

パラメーター

TRUNK トランクグループ名

入力・出力・画面例

```
Manager > destroy switch trunk=uplink  
  
Operation successful.
```

例

■トランクグループ「uplink」を削除する

DESTROY SWITCH TRUNK=uplink

備考・注意事項

所属ポートがある場合は削除できない。その場合は、DELETE SWITCH TRUNK コマンドでポートをすべて削除してから本コマンドを実行すること

関連コマンド

ADD SWITCH TRUNK (9 ページ)

CREATE SWITCH TRUNK (11 ページ)

DELETE SWITCH TRUNK (13 ページ)

SET SWITCH TRUNK (32 ページ)

SHOW SWITCH TRUNK (44 ページ)

DISABLE SWITCH BPDUFORWARDING

カテゴリー：スイッチング

DISABLE SWITCH BPDUFORWARDING

解説

BPDU 透過機能を無効にする。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable switch bpduforwarding  
  
Operation successful.
```

例

■BPDU 透過機能を無効にする

DISABLE SWITCH BPDU FORWARDING

関連コマンド

ENABLE SWITCH BPDUFORWARDING (20 ページ)

DISABLE SWITCH FLOW

カテゴリー：スイッチング

DISABLE SWITCH FLOW

解説

フローコントロール（Half Duplex 時は Backpressure、Full Duplex 時は IEEE 802.3x PAUSE）を無効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable switch flow

Operation successful.
```

例

■フローコントロールを無効にする

DISABLE SWITCH FLOW

関連コマンド

ENABLE SWITCH FLOW（21 ページ）

SHOW SWITCH（33 ページ）

DISABLE SWITCH INFILTERING

カテゴリー：スイッチング

DISABLE SWITCH INFILTERING

解説

インgressフィルタリングを無効にする。有効のときは、受信フレームの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致した場合のみフレームを受け入れ、それ以外は破棄する。無効の場合はすべてのフレームを受け入れる。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable switch infiltering

Operation successful.
```

例

■インgressフィルタリングを無効にする

DISABLE SWITCH INFILTERING

備考・注意事項

DISABLE 設定時、タグ付きフレームの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合 MAC アドレスは学習しない

関連コマンド

ENABLE SWITCH INFILTERING (22 ページ)

DISABLE SWITCH MIRROR

カテゴリー：スイッチング

DISABLE SWITCH MIRROR

解説

ポートミラーリング機能を無効にする。ミラーポートの設定は変わらない。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable switch mirror  
  
Operation successful.
```

例

■ ポートミラーリング機能を無効にする

DISABLE SWITCH MIRROR

関連コマンド

ENABLE SWITCH MIRROR (23 ページ)

SET SWITCH MIRROR (28 ページ)

SHOW SWITCH MIRROR (36 ページ)

DISABLE SWITCH PORT

カテゴリー：スイッチング

DISABLE SWITCH PORT=**{*port-list*|ALL}**

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

スイッチポートを無効にする。デフォルトは有効

パラメーター

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

入力・出力・画面例

```
Manager >disable switch port=1

Operation successful.
```

例

■ポート 1 を無効にする

DISABLE SWITCH PORT=1

関連コマンド

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE (8 ページ)

ENABLE SWITCH PORT (24 ページ)

RESET SWITCH PORT (26 ページ)

SET SWITCH PORT (30 ページ)

SHOW SWITCH PORT (38 ページ)

ENABLE SWITCH BPDUFORWARDING

カテゴリー：スイッチング

ENABLE SWITCH BPDUFORWARDING

解説

BPDU 透過機能を有効にする。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable switch bpduforwarding  
  
Operation successful.
```

例

■BPDU 透過機能を有効にする

ENABLE SWITCH BPDUFORWARDING

関連コマンド

DISABLE SWITCH BPDUFORWARDING (15 ページ)

ENABLE SWITCH FLOW

カテゴリー：スイッチング

ENABLE SWITCH FLOW

解説

フローコントロール（Half Duplex 時は Backpressure、Full Duplex 時は IEEE 802.3x PAUSE）を有効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable switch flow  
  
Operation successful.
```

例

■フローコントロールを有効にする

ENABLE SWITCH FLOW

関連コマンド

DISABLE SWITCH FLOW（16 ページ）

SHOW SWITCH（33 ページ）

ENABLE SWITCH INFILTRING

カテゴリー：スイッチング

ENABLE SWITCH INFILTRING

解説

インgressフィルタリングを有効にする。有効のときは、受信フレームの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致した場合のみフレームを受け入れ、それ以外は破棄する。無効の場合はすべてのフレームを受け入れる。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable switch infiltrating  
  
Operation successful.
```

例

■インgressフィルタリングを有効にする

ENABLE SWITCH INFILTRING

備考・注意事項

DISABLE 設定時、タグ付きフレームの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合 MAC アドレスは学習しない

関連コマンド

DISABLE SWITCH INFILTRING (17 ページ)

ENABLE SWITCH MIRROR

カテゴリー：スイッチング

ENABLE SWITCH MIRROR

解説

ポートミラーリング機能を有効にする。ミラーポートの設定は変化しない。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable switch mirror  
  
Operation successful.
```

例

■ポートミラーリング機能を有効にする

ENABLE SWITCH MIRROR

関連コマンド

DISABLE SWITCH MIRROR (18 ページ)

SET SWITCH MIRROR (28 ページ)

SHOW SWITCH MIRROR (36 ページ)

ENABLE SWITCH PORT

カテゴリー：スイッチング

ENABLE SWITCH PORT=**{*port-list*|ALL}**

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

スイッチポートを有効にする。デフォルトは有効

パラメーター

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

入力・出力・画面例

```
Manager > enable switch port=1  
  
Operation successful.
```

例

■ポート 1 を有効にする

ENABLE SWITCH PORT=1

関連コマンド

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE (8 ページ)

DISABLE SWITCH PORT (19 ページ)

RESET SWITCH PORT (26 ページ)

SET SWITCH PORT (30 ページ)

SHOW SWITCH PORT (38 ページ)

RESET SWITCH

カテゴリー：スイッチング

RESET SWITCH

解説

スイッチングモジュールをリセットする

すべてのスイッチポートがリセットされ、FDB のダイナミックエントリー等、動的に取得した情報はすべてクリアされる。また、スイッチングに関するタイマーと統計カウンターもクリアされる

入力・出力・画面例

```
Manager > reset switch  
  
Operation successful.
```

例

■スイッチングモジュールをリセットする

RESET SWITCH

関連コマンド

SHOW SWITCH (33 ページ)

RESET SWITCH PORT

カテゴリー：スイッチング

RESET SWITCH PORT=**{port-list|ALL}** [COUNTER]

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

スイッチポートをリセットする。リセットを実行すると、オートネゴシエーションプロセスを開始し、ポートの統計カウンターをクリアする

パラメーター

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

COUNTER 統計カウンターだけをリセットしたいときに指定する

入力・出力・画面例

```
Manager > reset switch port=1 counter  
  
Operation successful.
```

例

■ポート 1 のカウンターをリセットする

RESET SWITCH PORT=1 COUNTER

備考・注意事項

COUNTER オプションを指定せず実行すると、ポートがハードウェア的にリセットされてしまうため注意が必要

関連コマンド

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE (8 ページ)

DISABLE SWITCH PORT (19 ページ)

ENABLE SWITCH PORT (24 ページ)

SET SWITCH PORT (30 ページ)

SHOW SWITCH PORT (38 ページ)

SET SWITCH MIRROR

カテゴリー：スイッチング

```
SET SWITCH MIRROR={NONE|port-number} [RXFILTER={SA|DA|NONE}]
[RXADDRESS=macadd] [RXINTERVAL=0..1023] [TXFILTER={SA|DA|NONE}]
[TXADDRESS=macadd] [TXINTERVAL=0..1023]
```

port-number: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。単一ポートのみ指定可)

macadd: MAC アドレス。xx-xx-xx-xx-xx-xx の形式

解説

ミラーポートの設定および解除を行う

ソースポートと対象トラフィックの指定は、SET SWITCH PORT コマンドの MIRROR パラメーターで行う。1 つの VLAN に複数のソースポートが所属していて、タグ付きポートのソースポートとタグなしポートのソースポートが混在している場合は、ミラーポートではタグなしパケットがキャプチャーされる

パラメーター

MIRROR ミラーポートとして使用するポート。NONE を指定するとミラーポートの設定は削除され、ポートミラーリング機能は無効となる。タグ付きポートは指定できない

RXFILTER 受信したパケットの中の SA (送信元アドレス)、DA (宛先アドレス) 指定でミラーリングしたい場合に設定する。デフォルトはフィルター無効。有効から無効に戻す場合は、NONE を指定する

RXADDRESS RXFILTER で用いられる MAC アドレス

RXINTERVAL ミラーリング対象受信パケットの、ミラーリングするパケット間隔を指定する。2 を指定した場合 3 パケット毎にミラーリングする。0 を指定するとすべてのパケットがミラーリングされる

TXFILTER 送信パケットの中の SA (送信元アドレス)、DA (宛先アドレス) 指定でミラーリングしたい場合に設定する。デフォルトはフィルター無効。有効から無効に戻す場合は、NONE を指定する

TXADDRESS TXFILTER で用いられる MAC アドレス

TXINTERVAL ミラーリング対象送信パケットの、ミラーリングするパケット間隔を指定する。2 を指定した場合 3 パケット毎にミラーリングする。0 を指定するとすべてのパケットがミラーリングされる

入力・出力・画面例

```
Manager > set switch mirror=1

Operation successful.
```

例

■ポート 1 をミラーポートに設定する

SET SWITCH MIRROR=1

備考・注意事項

VLAN default 以外に所属しているポート、タグ付きポートはミラーポートに設定できない。また、トランクポートも不可。本コマンド実行時に別のポートがミラーポートとして設定されていた場合、先に設定されていたポートはミラーポートでなくなり、VLAN default 所属のタグなしポートとなる。ミラーポートになったポートは、どの VLAN にも所属しない

関連コマンド

DISABLE SWITCH MIRROR (18 ページ)

ENABLE SWITCH MIRROR (23 ページ)

SHOW SWITCH MIRROR (36 ページ)

SET SWITCH PORT

カテゴリー：スイッチング

SET SWITCH PORT={*port-list*|**ALL**} [**ACCEPTABLE**={**ALL**|**VLAN**}]
 [**DESCRIPTION**=*string*] [**MIRROR**={**BOTH**|**NONE**|**RX**|**TX**}] [**SPEED**={**AUTONEGOTIATE**|
10MHALF|**10MFULL**|**100MHALF**|**100MFULL**}]

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)
string: ポート名称。SHOW SWITCH PORT コマンドなどで表示されるもので、メモ的に使用する。20 文字までの半角英数字、およびシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [\] を除く半角記号で入力する。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲み指定する。消去する場合は 2 つのダブルクォートを指定するか何も指定しない

解説

スイッチポートの各種設定を行う

ミラーソースポート、通信モード、受信フレームタイプ (VLAN タグあり・なし) などの設定を行う

パラメーター

PORT 対象となるスイッチポート番号または **ALL**。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

ACCEPTABLE 受信可能なフレームタイプ。VLAN (VLAN タグ付きフレームのみ。VID=0 のプライオリティータグフレームは破棄) か **ALL** (すべて) から選択する。タグなし VLAN 所属ポートのデフォルトは **ALL**。タグ VLAN にしか所属していないポートでは、自動的に本パラメーターが **VLAN** に設定され変更できない

DESCRIPTION ポート名称。SHOW SWITCH PORT コマンドなどで表示されるもので、メモ的に使用する

MIRROR ミラーリングするトラフィックの向き。該当ポートをポートミラーリングのソースポートにしたいときに指定する。**BOTH** (送受信パケット)、**RX** (受信パケット)、**TX** (送信パケット)、**NONE** (ミラーリングしない) から選択する。デフォルトは **NONE**

SPEED ポートの通信速度とデュプレックスモードを設定する。デフォルトは **AUTONEGOTIATE**

入力・出力・画面例

```
Manager > set switch port=1 speed=100mhalf

Operation successful.
```

例

■ポート 1 の通信速度を 100MHALF に固定する

SET SWITCH PORT=1 SPEED=100MHALF

備考・注意事項

- ・トランクグループ所属ポートに対して本コマンドで **SPEED** オプションを変更した場合、ポートレベルの設定値は変更されるが、実際の値はトランクグループ全体の設定値のまま変化しない。同ポートをトランクグループから除外した時点で設定値が有効になる
- ・ **MIRROR** オプションでポートミラーリングのソースポートのトラフィックの向きに、TX または **BOTH** を指定した場合、ソースポートのステータス（リンクダウン、ポートディセーブル）にかかわらず、条件にあったパケットがミラーリングされる

関連コマンド

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE (8 ページ)

DISABLE SWITCH PORT (19 ページ)

ENABLE SWITCH PORT (24 ページ)

RESET SWITCH PORT (26 ページ)

SHOW SWITCH PORT (38 ページ)

SET SWITCH TRUNK

カテゴリー：スイッチング

```
SET SWITCH TRUNK=trunk [SPEED={AUTONEGOTIATE|10MHALF|10MFULL|100MHALF|
100MFULL}]
```

trunk: トランクグループ名

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

トランクグループの設定を変更する

パラメーター

TRUNK トランクグループ名

SPEED トランクポートの通信速度。トランクグループに参加したポートは、ここで指定した速度となる。
デフォルトは AUTONEGOTIATE

入力・出力・画面例

```
Manager > set switch trunk=uplink speed=10mhalf
Operation successful.
```

例

■ トランクグループ「uplink」の通信速度を 10MHALF へ変更する

```
SET SWITCH TRUNK=uplink SPEED=10MHALF
```

関連コマンド

ADD SWITCH TRUNK (9 ページ)

CREATE SWITCH TRUNK (11 ページ)

DELETE SWITCH TRUNK (13 ページ)

DESTROY SWITCH TRUNK (14 ページ)

SHOW SWITCH TRUNK (44 ページ)

SHOW SWITCH

カテゴリー：スイッチング

SHOW SWITCH

解説

スイッチングモジュールの全般的情報を表示する。Ctrl+C でスクロールを中止できる

入力・出力・画面例

```
Manager > show switch
```

Switch Configuration

```
-----
Switch Address ..... 00-09-41-12-34-56
Ageing Timer ..... On
Number of Fixed Ports ..... 8
Mirroring ..... Disabled
Mirror port ..... None
Ports mirroring on Rx ..... None
Ports mirroring on Tx ..... None
Ports mirroring on Both ..... None
BPDU Forwarding ..... Disabled
Ageingtime ..... 300
UpTime ..... 00:30:32
-----
```

Switch Address	本製品の MAC アドレス
Ageing Timer	フォワーディングデータベースのエージングタイマーの状態。機能している (On) または機能していない (Off)
Number of Fixed Ports	固定 Ethernet ポートの数
Mirroring	ポートミラーリング機能の状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Mirror port	ミラーポート
Ports mirroring on Rx	受信トラフィックだけをミラーリングしているソースポート
Ports mirroring on Tx	送信トラフィックだけをミラーリングしているソースポート
Ports mirroring on Both	送受信両方のトラフィックをミラーリングしているソースポート
BPDU Forwarding	BPDU 透過機能の状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Ageingtime	フォワーディングデータベースのエージングタイム (秒)
UpTime	再起動後の経過時間 (時:分:秒の形式)。MIB-II オブジェクトの sysUpTime と同じ

表 1:

例

■スイッチングモジュールの全般的情報を表示する

SHOW SWITCH

関連コマンド

RESET SWITCH (25 ページ)

SHOW SWITCH COUNTER

カテゴリー：スイッチング

SHOW SWITCH COUNTER

解説

マネージメントモジュールの統計カウンターを表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show switch counter

Switch Counters
-----
Receive          Transmit
packets :    123   packets :     0
errors  :         errors :     0
-----
```

Receive	受信パケットに関する統計
packets	スイッチチップから CPU に渡されたパケットの数
errors	スイッチチップで正常に受信されたが、エラーのため CPU で処理できなかったパケットの数
Transmit	送信パケットに関する統計
packets	CPU からスイッチチップに渡されたパケットの数
errors	エラーのために CPU で破棄されて送出できなかったパケットの数

表 2:

例

■マネージメントモジュールの統計カウンターを表示する

SHOW SWITCH COUNTER

関連コマンド

SHOW SWITCH PORT COUNTER (41 ページ)

SHOW SWITCH MIRROR

カテゴリー：スイッチング

SHOW SWITCH MIRROR

解説

ミラーポートの設定情報を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show switch mirror

Port Mirroring Configuration
-----
Mirror Port ..... 1
Ports Mirroring on Rx ..... 3
Ports Mirroring on Tx ..... None
Ports Mirroring on Both ... 5
Rx Filter ..... Source Address
Rx Address ..... 00-00-A5-47-30-A4
Rx Interval ..... 0
Tx Filter ..... Destination Address
Tx Address ..... 00-90-F4-27-10-A4
Tx Interval ..... 1023
-----
```

Mirror Port	ミラーポート番号
Ports Mirroring on Rx	受信トラフィックだけをミラーリングしているソースポート
Ports mirroring on Tx	送信トラフィックだけをミラーリングしているソースポート
Ports mirroring on Both	送受信両方のトラフィックをミラーリングしているソースポート
Rx Filter	受信したパケットに対し、送信アドレス (Source Address) または宛先アドレス (Destination Address) 指定でミラーリングしている場合、そのいずれになっているか
Rx Address	Rx Filter で用いられる MAC アドレス
Rx Interval	Rx Filter でミラーリングするパケット間隔。たとえば、2 の場合 3 パケット毎にミラーリングする。0 の場合、無効 (すべてをミラーする)
Tx Filter	送信したパケットに対し、送信アドレス (Source Address) または宛先アドレス (Destination Address) 指定でミラーリングしている場合、そのいずれになっているか

Tx Address	Tx Filter で用いられる MAC アドレス
Tx Interval	Tx Filter でミラーリングするパケット間隔。たとえば、2 の場合 3 パケット毎にミラーリングする。0 の場合、無効（すべてをミラーする）

表 3:

例

■ミラーポートの設定情報を表示

```
SHOW SWITCH MIRROR
```

関連コマンド

DISABLE SWITCH MIRROR (18 ページ)

ENABLE SWITCH MIRROR (23 ページ)

SET SWITCH MIRROR (28 ページ)

SHOW SWITCH PORT

カテゴリー：スイッチング

SHOW SWITCH PORT [= {*port-list* | ALL}]

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

スイッチポートの情報を表示する

パラメーター

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる。ポートの指定を省略すると全ポートの状態を簡易表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show switch port
```

```
Switch Port Information
```

Port	Status	LinkState	Speed	Mirroring	Trunk	Vlan ID
1	Enabled	Up	100MFull	None	None	default (1)
2	Enabled	Up	100MFull	Tx	Uplink	default (1)
3	Enabled	Up	10MFull	Rx	Uplink	default (1)
4	Enabled	Up	100MFull	Both	None	default (1)
5	Enabled	Down	—	None	None	default (1)
6	Enabled	Up	100MFull	None	None	default (1)
7	Enabled	Up	100MFull	Mirror	None	default (1)
8	Enabled	Up	100MFull	None	None	default (1)

```
Manager > show switch port=1
```

```
Switch Port Information
```

```
-----
Port ..... 1
Description ..... -
Status ..... Enabled
Link State ..... Up
UpTime . .... 4 days, 19:18:06
Port Media Type ..... ISO8802-3 CSMACD
Configured speed/duplex ..... Autonegotiate
```

```

Actual speed/duplex ..... 100 Mbps, full duplex
Acceptable Frame Types ..... Acceptable All Frames
Mirroring ..... None
Is this port mirror port ..... No
Enabled flow control(s) ..... Pause
Send tagged pkts for VLAN(s) ... -
Port-based VLAN ..... default (1)
Ingress Filtering ..... Off
Trunk Group ..... -
-----

```

Port	ポート番号
Status	ポートの状態。有効 (ENABLED) または無効 (DISABLED)
LinkState	ポートのリンクステータス。リンクが確立 (Up) または確立していない (Down)
Speed	実際の通信モード。10MHALF、10MFULL、100MHALF、100MFULL のいずれか
Mirroring	ミラーリング対象ポートのパケットの向きまたはミラーポート。ミラーリングしない (None)、受信 (Rx)、送信 (Tx)、送受信 (Both)、ミラーポート (Mirror) のいずれか
Trunk	ポートが所属するトランクグループ名
Vlan ID	ポートが所属するポートベース VLAN 名 (VID)

表 4:

Port	ポート番号
Description	ポートの説明 (メモ)
Status	ポートのステータス。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Link State	ポートのリンクステータス。リンクが確立 (Up) または確立していない (Down)
Up Time	ポートがリセット (初期化) されてから現在までの経過時間 (xx days, hh:mm:ss の形式)
Port Media Type	MIB-II オブジェクト ifType で定義される物理層インターフェースタイプ
Configured speed/duplex	通信モードの設定値。Autonegotiate、10M bps/100M bps、half duplex/full duplex のいずれか
Actual speed/duplex	実際の通信モード。Configured speed/duplex が Autonegotiate の場合に、実際の通信モードが 10M bps/100M bps、half duplex/full duplex のいずれかで表示される
Acceptable Frame Types	受信可能なフレームタイプ。すべてのフレーム (Acceptable All Frames) またはタグ付き VLAN フレームのみ (Admit Only Vlan-tagged Frames)

Mirroring	ミラーリング対象パケットの向き。ミラーリングしない (None)、受信 (Rx)、送信 (Tx)、送受信 (Both) のいずれか
Is this port mirror port	ミラーポートに設定されているかどうか。設定されている (Yes) またはされていない (No)
Enabled flow control(s)	有効なフロー制御方式。Half Duplex 時 (Backpressure) または Full Duplex 時 (Pause)
Send tagged pkts for VLAN(s)	ポートが所属するタグ VLAN 名 (VID)
Port-based VLAN	ポートが所属するポートベース VLAN 名 (VID)
Ingress Filtering	インGRESSフィルタリングの有効 (On) または無効 (Off)
Trunk Group	ポートが所属するトランクグループ名

表 5: PORT オプション指定時

例

■スイッチポート 1 の情報を表示する

```
SHOW SWITCH PORT=1
```

■全ポートの一覧を簡易表示する

```
SHOW SWITCH PORT
```

関連コマンド

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE (8 ページ)

DISABLE SWITCH PORT (19 ページ)

ENABLE SWITCH PORT (24 ページ)

RESET SWITCH PORT (26 ページ)

SET SWITCH PORT (30 ページ)

SHOW SWITCH PORT COUNTER

カテゴリー：スイッチング

SHOW SWITCH PORT [= {*port-list*|ALL}] **COUNTER**

port-list: スイッチポート番号 (FS808M: 1~8、FS816M: 1~16。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

スイッチポートの統計カウンターを表示する。Ctrl+C でスクロールを中止できる

パラメーター

PORT スイッチポート番号または ALL を指定する。省略時は ALL

入力・出力・画面例

```
Manager > show switch port=1 counter

Switch Port Counters
-----
Port 1. Fast Ethernet MAC counters:
  Combined receive/transmit packets by size (octets) counters:
Receive                                Transmit
ifInOctets                :          5133  ifOutOctets                :          128
ifInUcastPkts              :              0  ifOutUcastPkts              :              0
ifInNUcastPkts             :             41  ifOutNUcastPkts             :              2
ifInDiscards               :              0  ifOutDiscards               :              0
ifInErrors                 :              1  ifOutErrors                 :              0
ifInUnknownProtos         :              0  ifOutQLen                   :              0

dot3StatsAlignmentErrors   :              0
dot3StatsFCSErrors         :              0
dot3StatsSingleCollisionFrames :          0
dot3StatsMultipleCollisionFrames :          0
dot3StatsSQETestErrors     :              0
dot3StatsDeferredTransmissions :          0
dot3StatsLateCollisions    :              0
dot3StatsExcessiveCollisions :          0
dot3StatsInternalMacTransmitErrors :          0
dot3StatsCarrierSenseErrors :          0
dot3StatsFrameTooLongs     :          0
dot3StatsInternalMacReceiveErrors :          0
dot3StatsSymbolErrors      :          0
-----
```

Receive	受信トラフィックカウンター
ifInOctets	受信オクテット数
ifInUcastPkts	上位のレイヤーに配送されたユニキャストパケット数
ifInNUcastPKts	上位のレイヤーに配送された非ユニキャストパケット（ブロードキャストパケット/マルチキャストパケット）数
ifInDiscards	バッファのオーバーフローなどで破棄された受信パケット数
ifInErrors	エラーを含んでいるために破棄された受信パケット数
ifInUnknownProtos	プロトコルが未知またはサポートされていないために破棄された受信パケット数
Transmit	送信トラフィックカウンター
ifOutOctets	送信オクテット数
ifOutUcastPkts	上位のレイヤーからの送信を要求されたユニキャストパケット数（破棄されたパケットも含む）
ifOutNUcastPkts	上位のレイヤーからの送信を要求された非ユニキャストパケット（ブロードキャストパケット/マルチキャストパケット）数（破棄されたパケットも含む）
ifOutDiscards	バッファのオーバーフローなどで破棄された送信パケット数
ifOutErrors	エラーを含んでいるために破棄された送信パケット数
ifOutQLen	送信パケットキューの長さ
dot3StatsAlignmentErrors	アライメントエラーフレーム数
dot3StatsFCSErrors	FCS エラーフレーム数
dot3StatsSingleCollisionFrames	シングルコリジョンフレーム数
dot3StatsMultipleCollisionFrames	マルチプルコリジョンフレーム数
dot3StatsSQETestErrors	SQE テストエラーフレーム数
dot3StatsDeferredTransmissions	リソース不足のため送信が延期されたフレーム数
dot3StatsLateCollisions	レイトコリジョンが発生したフレーム数
dot3StatsExcessiveCollisions	コリジョン多発のために送信に失敗したフレーム数
dot3StatsInternalMacTransmitErrors	MAC レイヤーレベルの送信エラーのために送信に失敗したフレーム数
dot3StatsCarrierSenseErrors	キャリアセンスエラーフレーム数
dot3StatsFrameTooLongs	サイズオーバーフレーム数
dot3StatsInternalMacReceiveErrors	MAC レイヤーレベルの受信エラーのために受信に失敗したフレーム数
dot3StatsSymbolErrors	シンボル（符号）エラーフレーム数

表 6:

例

■ポート 1 の統計情報を参照する

SHOW SWITCH PORT=1 COUNTER

関連コマンド

SHOW SWITCH PORT (38 ページ)

SHOW SWITCH TRUNK

カテゴリー：スイッチング

SHOW SWITCH TRUNK [=trunk]

trunk: トランクグループ名

解説

トランクグループの情報を表示する

パラメーター

TRUNK トランクグループ名。省略時はすべてのトランクグループを表示

入力・出力・画面例

```
Manager > show switch trunk

Switch Trunk Groups
-----
Trunk group name ... uplink
Speed ..... Autonegotiate
Select ..... Source and Destination MAC Address
Ports ..... None
-----
```

Trunk group name	トランクグループ名
Speed	トランクポートの通信速度。Autonegotiate、10MFULL、10MHALF、100MFULL、100MHALFのいずれか
Select	送出ポートの選択基準。送信元アドレスと宛先アドレスによって計算されます (Source and Destination MAC address 固定)
Ports	所属ポートの番号

表 7:

例

■ トランクグループの情報を表示する

SHOW SWITCH TRUNK

備考・注意事項

トランッキングアルゴリズムは、Select に示されている Source and Destination MAC Address と Port に示されている接続ポート数によって計算される

関連コマンド

ADD SWITCH TRUNK (9 ページ)

CREATE SWITCH TRUNK (11 ページ)

DELETE SWITCH TRUNK (13 ページ)

DESTROY SWITCH TRUNK (14 ページ)

SET SWITCH TRUNK (32 ページ)